

## この世界は繰り返しに過ぎない

この世界は繰り返しに過ぎません。繰り返しの効果を私達は世界として見ています。世界は繰り返される行為に他なりません。何も繰り返されなければ、全てはたった1つです。何度も繰り返されれば、それはそれぞれ違うものになります。2度繰り返され、3度繰り返されれば、それぞれ違うものになります。4度繰り返せば、より強固なものになります。自然は全て繰り返しに他なりません。1つのことが何度も繰り返されていることを忘れないください。

水は何度も振動し、波紋、波、潮流となります。そこには、違いがあります。波紋はとても小さなバイブレーションです。繰り返された小さなバイブレーションが波です。繰り返された波は潮流と呼ばれます。このことから、世界は繰り返しのプロセスに他ならないことが理解できるでしょう。

時間もそうです。時間は繰り返します。この繰り返しはサイクルと呼ばれます。全ては何度も繰り返されます。季節は何度も繰り返されます。何度も春が来て、夏が来て、冬が来ます。何度も日曜日、月曜日が来ます。何度も朝が来て、夕方が来ます。時間は繰り返され、世界は繰り返されます。全てが繰り返されるのです。

## 繰り返される時、微細なものは粗雑なものになる

繰り返される時、微細なものは粗雑なものになります。とてもシンプルです。これを基本として理解すれば、全ての疑問は解決します。これが基本として理解すべきことです。全てが繰り返され、矛盾は全くありません。

## 世界は丸い

東は西を意味し、北は南を意味します。どういうことでしょうか？

北から歩き続けたらどこに着きますか？南に着きますか？北に着きますか？

さらにまっすぐに歩き続けると、最初にあなたが北と呼んだ場所に着きます。北が繰り返されるのです。

全ては球体です。全てです！世界は丸いのです。全ての方向に360度広がっています。こちらの力にも、あちらの力にも、無限の力に向かって360度広がっています。全方向に広がっています。そして、中心があるところには周辺があります。

これがこの世界のあり方です。このように私達は混乱したり、誤解したりするのです。

同じことが何度も繰り返されることを変化現象と言います。あるいは、2つのものの違い、作用と反作用、対象物とその投影等、どのようにも呼ぶことができます。

それらを理解することも、何千通りもの違う見方で見ることもできます。

## 360度の視点

ですから周囲を回り、360度の視野を持って見なさいと繰り返し言うのです。

神殿を巡り、山を巡り、街を巡り、それらについて全てを知るのです。山を一周すると、瞬間ごとに景色は変化しますが、山の景色が変化しているだけで、山は変わりません。

全方位的な視野を持つことを脳に刻みつけてください。強制的に！強く印象付けてください！世界は丸いのです。そして、全ては繰り返されています。あちこちが混乱しているのは、私達がたった1つの角度から見ているせいで、違いを見ているからなのです。全方位的な視野から見れば、矛盾はありません。矛盾も、疑いも、疑問も、答えもありません。全ては1つです。

## 全てが1つになると、思考は働かない

全てが1つになると、思考はまったく働きません。心は静かにならざるを得ません。そうして初めて、心は静かになるのです。理解すべきことはなく、違いを生むものはなく、疑う理由もありません。

疑いがあるために、心は揺れ動くのです。これはどうだろう？あれはどうだろう？あれは何だろう？あれはどこだろう？あれはいつだろう？あらゆる質問が出てきます。

一目で全てを1つとして見たら、疑いの余地はありません。心は動きようがありません。止まるしかないのです。

### あらゆる対義語は同じことを意味する

私たちは二元論的な言葉や反対の言葉について議論しています。いつも同じことで、第3章と第4章ではこのことだけを説明しています。あらゆる対義語、内向性と外向性、プラパンチャとニシュプラパンチャ、五大元素、五大元素の構成、構成のない単一の元素、知識と無知。それらは同じものです。寒さと暑さもただ1つのもので、温度が違うだけです。太陽と月も。太陽と月が同じだという考えを受け入れられますか？

分析を続ければ、そのような考え方を受け入れられるでしょう。温度が違うだけです。一方は揺らぎがなく冷たいと言われ、もう一方は振動していてとても暑いと言われます。違いは温度だけでしょ？

北極と赤道も同じとはどういうことでしょうか？温度の違いだけです。温度はどちらにも存在しています。私達は北極の寒さも赤道の暑さも、温度でわかります。私達は温度を使っています。マイナスでもプラスでも、それは温度でしかありません。

このように、どちらも一緒に見なければなりません。違いはないのです。全方位的な視野で見れば違いはないのですが、違う角度から見ると、違いがあるのです。わかりますか？

### エゴとエゴのない状態は同じ

今日も同じ話をします。エゴネス(エゴがあること)とエゴレスネス(エゴがないこと)です。誰もがエゴを持っています。エゴとは何でしょう？温度と同じです。プラスもマイナスも温度として知られているように、エゴもまた、ただ1つのものです。

エゴと呼ばれるもの、固執、プライド、頑固さ、これらは全てエゴの性質です。謙虚さ、身を委ねること、遜り下ること、受け入れること、これらもすべて同じエゴです。それを忘れてはいけません！こちらはゼロのエゴで、そちらには100のエゴがある。100%のエゴと0%のエゴです。パーセンテージが違うだけです。降伏は0%です。「私は降伏しています」と言っている人にもエゴはありますが、0%です。エゴ無しでは、何もできません。

欲望も同じです。欲望にはさまざまな種類があります。ある欲望は欲望を無限の欲望にまで強め、別の欲望は欲望をゼロにします。無欲の状態です。無欲になることもまた欲望です。欲望の放棄もまた欲望です。エゴは消せません。100かもしれないし、ゼロかもしれないが、エゴはあるのです。

### エゴがあるところに世界がある

エゴは私を意味し、私があるということは心があります。つまり世界があるということです。そこには相対的な世界があります。

全てがゼロになるということは、『2つ目のない1つ』を意味します。ゼロは2つなく、1つしかありません。その時に初めて全てが止まり、心は静かにならざるを得ません。あちこち動き回ることはできません。心がなくなります。心がないとしか言えません。エゴのない状態ですが、エゴという言葉当てはめなければなりません。なぜなら、私達は言葉を使わなければならないからです。

### 言葉は無意味

言葉は全て無意味ですが、何らかの示唆的な意味を持っています。それを忘れないでください。私たちが何を言おうが、他の人が何かを言うのを聞こうが、それらは無駄で、無意味で、価値のないものです。何の価値もありません。

ところが、それに、価値はあるのです。どのような価値でしょう？それは何かを指しているのです。そのことは、当然のように誰もが受け入れています。毎日のようにこの例を出しますが、私が「木の上のオウムを見てください」

と言ったら、あなたはそれを示している私の指を見ますか？それともオウムを見ますか？何を見ますか？指に価値を与えないでください。指には何もありません。

目的は、言語によって示された対象物を見ることなのです。言語は指示的なものです。私は「オヤマ・マタジ」と言いました。あなたはその音が出てきた私の口を見ますか？それとも、その言葉に関係する名前をもつ人物を見ますか？このように、音や言葉や言語は意味を持ちませんが、それは何かを示しています。要点がわかりましたか？

あなたが頷いたら、私はあなたの頭を見るのではなく、「YES！」だと理解します。木々が動いたら、木々の枝を見るのではなく、風を見ます。それが示唆されています。ですから、どの言葉を使うにしても、その示唆する意味を理解しなければなりません。

### **比較や対立を除くと、残るものが真理**

言葉には常に反対の言葉があり、相反するものがあります。世界は対極の対によって構成されているからです。どんな言葉を使っても、何を見ても、それには反対のものがあります。相対的世界と呼ばれているのはそのためです。比較がなければ、対立がなければ、違いがなければ、世界は存在しません。

世界が存在しないというなら、何があるというのでしょうか？

これらの違いや対立、混乱をすべて取り除くと、残るものは真理です。

しかし、それを見ることができないので、このようにあれとこれを関連付け、比較をします。

### **私達の視覚は不完全**

私達は、一瞥で全身を見ることはできません。部分ごとにしか見ることはできません。私達の視覚は部分的で、欠陥があり、完全ではなく、完璧ではないからです。それを受け入れなければなりません。

何を理解しようと、何を見ようと、何を知覚しようと、それは間違っではないし、正しくありません。世界はそういうものです。そして私達もそういうものです。全ての存在がそうです。あれか、これのどちらかです。完全なものはありません。

### **心は振動システムに他ならない**

心は振動システムに他なりません。心が止まれば、つまり波動が止まると初めて心が止まります。そして、どのような動きもなくなります。知覚もありません。世界はなくなり、中心に集中して1つになります。心が1つになるということは、心が彷徨わずに、動かないということです。不動の心。すでに私達は理解しているように、心とはプロセスに他なりません。プロセスがなければ、何があるというのでしょうか？

私は私としてそこには存在しません。それはしばらくの間、私として現れていますが、やがてなくなります。

### **心はゆっくりとしたプロセスで変化する**

朝と夕方の例で説明しましょう。朝、光が射すと、闇はゆっくりと消えていきます。ゆっくりとしたプロセスです。朝はかなり明るくても、どこかに暗闇が少し漂っています。昼間は闇がなくなり、影もなくなります。

3月21日や9月23日のように、昼夜が同じ長さの日であれば、昼間に影はありません。夕方になると光は消え、闇が現れます。しばらくの間は太陽が沈んでも光が残り、黄昏と呼ばれます。それはしばらく続きます。そして真夜中になると、光が全くなくなります。

それはゆっくりとしたプロセスです。同様に、私達のエゴ(私という意識あるいは心)やプラーナも、機能的に何が起こっとうと、どのような行為が行われていようと、それは作用と反作用のプロセスにすぎません。

時間や空間も同じです。

違う名前を付けただけです。全て同じ自然のプロセスなのです。プロセスが止まっても、しばらくはそれまでの勢

いによって、止まっていないように見えます。ちょうど夜や夕方になっても、しばらくの間は薄明かりがあるように、ゆっくりと光は消えていきます。

### やがて1つの思考も消える

同じように、このエゴや行為も、勢いがなくなり、やがて消えてなくなります。そして究極の安定状態になります。その状態が長く続くと、確かなものになります。そうなれば、もう動き回る可能性も、行為も反作用もなくなります。

ヨーガ・スートラによると、まず1つの思考に集中するサヴィカルパ瞑想に入ります。1つの思考です。2つではありません。長い間、1つの思考にとどまります。それがサヴィカルパ瞑想で、それに私達は様々な名前を付けて呼んでいます。それが確立されると、同じものがニルヴィカルパ瞑想になります。

その1つの思考が消えると、残るものは真理です。その状態が長く続くと、ちらちらとした動きの可能性もなくなります。そういうことが起こります。

### 正反対のものを同じものの名前の中に見る

エゴはしばらく残り、その後は完全なエゴのない状態、絶対的な真理、パラマートマです。ですから、エゴとエゴのない状態は同じです。ちょうど、波紋と波紋のない状態がどちらも水であるのと同じです。

私達は、これらの正反対のものを全て、同じものの名前の中に、1つのものの両面として見るべきです。

相反するものは全て同じです。古いものは新しくなり、新しいものは古くなります。新しかったものも、同じものが古いものになります。それらは同じもので、お互いに違うものではありません。新しいスーツはいつか古いスーツになります。あなたの新しかった体も今は古い体です。ですからこのような違いを持たないでください。

1つの、常に存在し、不滅で、全てに浸透する存在が、そこに存在していないかのように見えます。私達が頭を見て、尻尾がないと思うのと同じです。尻尾を見ると、頭がないと思います。私達の見方や理解力のせいです。同様に、滅びやすさと不滅はどちらも同じ真実の裏表なのです。滅びているように見えるものが、別の角度から見ると、永遠に不滅で、不滅で、朽ちることがないように見えるのです。

### 世界はブラフマンの上に投影されている

この虫眼鏡は少し汚れています。このことから何がわかりますか？ガラスは汚れますか？

汚れることは決してありません。汚れは何かにな重なっているだけです。それがなくなれば、ガラスはガラスです。汚れているように見えることもあります。それを取って、こすって、洗えば、透明に見えます。同じガラスが、ある時は汚れているように見え、汚れがなければ透明に見えます。

同じように、同じ真理が世界のように見えることもあれば、世界がないように見えることもあるのです。

クリア(鮮明)な太陽が溶けてなくなるとしましょう。鮮明な太陽がないということは、(上記の話で言う)汚れのないクリア(透明)なガラスだということです。透明度は透明です。透明なガラスは今、隠すものが何も重なっていないので透明です。

#### 【訳註】

「クリア(鮮明)な太陽」とは、世界のように見えている真理。同じクリアという言葉でも透明という意味の「クリアなガラス」は、ガラスに汚れが付着しておらず、透明性が透明に保たれている状態。

つまり、透明性がいかなる目に見える世界に汚される(覆われる)ことなく透明であること=ブラフマンがマーヤーの戯れに覆い隠されなければ世界がないように見えるという意味。

ブラフマンを「虫眼鏡の透明性」に例え、時に汚れているように見えても、ブラフマン自体は決して汚れず、その上に戯れが投影されているだけであり、マーヤーの戯れがない状態であれば、「世界は存在せず、ブラフマンがあるのみ。」を意味する。

## 【補足】

スワミジは、同じクリアという言葉を言葉遊びのように「鮮明」と「透明」という反対の意味に使われました。はっきりと存在しているように見える鮮明な太陽(世界)は実はマーヤーの戯れであり、透明なガラス(世界が重なっていない真理=ブラフマン)も、どちらもただ1つの真理を表しています。つまり、反対の意味ですが、同じものを示しています。

このように、反対語は全て同じことを意味しています。エゴとエゴのないこと、滅びやすさと不滅、汚れと汚れのない状態、透明であること。透明でなければ、濁っていたり霧がかかっていたり、汚れが付着していたりしますが、それらは同じことを意味しています。

別の例を挙げましょう。劇でラーマ王の役を演じる少年は、ある時はラーマのようで、またある時はいたずらっ子です。同じ少年が、大変落ち着き、大変勇敢で、大変静かに歩き、大変優雅に演じます。ひとときも黙っていないいたずらっ子が、そのように振る舞います。

また、私達のドクターには、2人の子供がいます。男の子と女の子です。どちらも子供です。ドクターは女の子を見て、「我が子よ、愛する子よ」と言います。そして男の子を見て、「私の子供よ！」と言います。2人とも父親にとっては子供なのです。暗闇と光、古いものと新しいものも同じです。新しいものが古くなります。子供が老人になります。同じ人です。かつて子供だったあなたは、今は歩くこともできない老人です。同じ人です。変わっていません。

### 小宇宙の中に宇宙全体を見る

同じ真実が、世界という変化し続ける現象であるかのように現れます。あなたが、安定した心、正しい理解、一点に集中した心、内向的な心を持っている時には、それは外向的な世界として現れないでしょう。それは一点のみになるでしょう。

それは最大のものより大きく、最小のものよりも小さいものであるかのように現れます。全宇宙は小宇宙の中に存在します。同じものです。構造も形も同じです。全宇宙は最大よりも大きく、かつ1つの小宇宙、1つの原子のようです。構成や構造や見かけは同じです。違いはありません。

科学者にはそれがわかります。ですから、科学者になりなさい。哲学者は科学者の祖父です。彼らは科学者をも超えています。科学者は心、知性、直感で進みますが、哲学者はこれら全てを超えていきます。ですから、哲学者に、科学者になりなさい。小宇宙の中に宇宙を見なさい。いいですか？どちらも同じものです。違いはないのです。

### あなたは考えるようになる！

牢獄に入れられていたあなたが、釈放され、今は賑やかな街を自由に歩いているとしましょう。あなたは別の人になったのでしょうか？牢獄に閉じ込められていた同じ体が、今は自由で、どこでも自由に移動しているのです。あなたは、自分が閉じ込められ、この世界に縛られていると思っていますか？自由だと思えば、自由なのです！

あなたが考えるように、あなたはなるのです！あなたは今、何ですか？

**全ては考え、思考です。私達は、限定された思考によって、自分自身を大きく制限してきました。**

### 私＝絶対的存在

私は男でも女でもありません。私は存在です。私は無限の存在でも、限られた存在でもありません。私は存在です。私は私でも、私でなくもありません。私はその絶対的な存在を享受しています。私は絶対的存在です。そう思えば、そうなります。そう思った瞬間、あなたはその絶対的存在です。あなたは全ての存在の内在者で

す。あなたはどこにでも存在します。あなたはそれなのです。ヴェーダはそう言っています。  
That Thou Art. あなたはそれです。あなたはこの人間の肉体ではありません。あなたは絶対的真理です。  
私はアートマン。ブラフマン。この私は絶対的な真理、すなわち遍在する真理以外の何ものでもありません。

### **私達は習慣の奴隷になっている**

あなたが人間なら、私も人間です。どうしてあなたと私は違うと言えるのですか。あなたは日本人で、私はインド人などと、どうして言えるのでしょうか。とんでもない！あなたは存在で、私も存在です。私達は同じです。このような違いを持たないでください。しかし残念なことに、私達はあまりにもそれが習慣化してしまい、この習慣の奴隷になっています。

では、どうすればよいでしょう？あなたは考える通りになるのです！自分が人間だと考えないでください。私は絶対的な存在です。私は『2つ目のない1つ』です。私はどこにでも常に存在しています。その考えは徐々に確固たるものになります。あなたは絶対的な存在と1つになります。それが先見者たちによって語られたことであり、言語によって語られたことです。絶対的存在との一体化。あなたは絶対的存在と一体なのです。Manyness(メニネス:ワンネスの反対)の世界からの自由なのです。これがムクティ、そして多々ある世界からの自由です。このように語られています。

### **外側には違いがあっても、内側には違いはない**

もちろん、相対的な世界で行動する時には、違った行動を取らなければなりません。目で食べ、鼻で聞き、耳で食べることはできません。そういうことはできません。外側の相対的な世界で何かに対処する時は、違いを持たなければなりません。しかし、内側には違いはありません。

**これが人生の生き方です。内には違いはなく、外には違いがあります。  
違いと違いがないことは、1つの中にあるのです。いいですか？誤解しないでください。**

平等な視点とは、耳で食べることはありません。犬は犬、虎は虎です。犬と遊ぶことはできますが、野生の虎とは遊ぼうとしないでください。相対的な世界での外側のやり取りには違いがなければなりません。

### **本当の意味での平等な視点**

**違いの中に違いを見ないこと、つまり内側では平等な視点を持ちます。**

皆、人間です。私は、皆の中に絶対的存在があると知っています。ですから内面では、誰に対しても同じような感情を抱いています。しかし、外面的に振る舞うときには、明日(インドに住む)彼にさようならとは言いません。(日本に帰る)あなたにさようならと言います。違いがあります。わかりますか？内側では、彼女は私の友人で、彼も私の友人で私の仲間達だと知っています。外見上は違いがあっても、内側では全員が友人だと私は知っています。

どこにいても、誰もが人間で、人間として振る舞うべきです。犬としてや猫としてではありません。蚊としてでもハエとしてでもなく、人間として振る舞うべきです。これこそが平等な視点と呼ばれるものです。外側に違いはあっても、内側に違いはないのです。

平等な視点を持つためには、全ての違いを同時に見なければなりません。そして、どのような状況にあっても、心では絶対的な存在だけを見るべきです。時間や空間や条件の必要性に応じて、適切に振る舞わなければなりません。頭がおかしい人のように振る舞ってははいけません。物事のわかる人として適切に振る舞いなさい。**内面では全ては1つの絶対的な存在で遍在していますが、外側では適切に振る舞いなさい。**

### **1つの心が投影されている**

**この外側の世界は、様々な形で鏡に映っている1つの心の投影にすぎません。**

これが偉大な人々による最終的な宣言です。

**この世界は、鏡に映るいくつもの投影にすぎず、あなたの心の中では1つなのです。これが本質です。**

外側には、違いや多様なものが見えますが、心配しなくても大丈夫です。それは1つで、ただ1つのものが色々な形で反映されていることを理解すればよいのです。これは倫理性、行動規範と呼ばれるものです。心の中では1つ。外側はたくさん。どちらも同じです。

あなたがこのことを理解したら、外の世界に対しては適切に振る舞い、異なる存在に敬意を払い、異なる振る舞いをしますが、内側は1つです。

反射はたくさんあります。一方はとても暗く、もう一方は非常に明るい。一方ははっきりしていなくて、もう一方はとてもはっきりしています。

そして反射は反射に反射します。1つの反射は1つの中にたくさんあるように見えます。1つの中に2つ、または3つあるように見える反射や、1つの中に1つのはっきりとした反射が見えるものもあります。これらの違いは全て反射にすぎないのです。

### **良い行動規範を定める**

ですから、適切に振る舞わなければなりません。異なる反射に対して異なるように振る舞います。これは行動規範(作法)と言われるものです。行動規範を定めなさい。良い行動、適切な行動、倫理性、良い行動規範が、あなたをダルマに導きます。これが宗教性、吉兆、正しさです。あなたが内側で平等な見方をし、適切に、正しく、アイデンティティに相応しい振る舞いできれば、あなたは絶対的な真理へと導かれます。

不滅とは、この正義の神です。吉兆なものは常に吉兆です。常に至福です。あなたを絶対的な平安へと導きます。適切に振る舞わなければなりません。

外の世界の人々のことを考えるべきか、その必要はないか？私達の振る舞いの基本とは何ですか？

あなたは、あなたのルールをどのように定めますか？

### **これが結論**

話をまとめましょう。

**対極のペアはどれも、違いを生み出すことはできません。正反対のペアには違いがありません。これが結論です。**私が頭と言え、あなたは足だと理解しなければなりません。私が「前を見なさい」と言ったら、あなたは前を見て、同時に後ろも見なければなりません。見るということは、全方向を見るということです。

私が「前を見て」と言ったら、あなたは前も後ろも見なければなりません。

いいですか？全方向を見るのです。どちらも同じです。

このヨーガ・ヴァシスタには、ある物語があります。幽霊と王の問答の話です。幽霊が言いました。「もしあなたが私の質問に適切に、正しく答えたら、私はあなたの元を去ろう。しかし、もし正しく答えられなかったら、私はあなたを食べてしまおう。」王は適切に、正しく答えました。幽霊、というより善良な霊でしたが、彼の質問はこのようなものでした。「何千ものヒマラヤの山々を内側に抱えている辛子の種はどれだ？」「何千もの太陽の中で、光り輝き、煌めく我々の太陽、偉大な太陽はどれだ？」「たった1つの血球の中に無数の存在を抱えている、最も偉大な存在は誰だ？」これらはどれも互いに正反対のものです。

王は全ての質問に効果的に答え、霊は王国を去っていきました。

王はきちんと答えました。反対は全て同じなのです。何千ものヒマラヤの山々は、小さな辛子の種の中に存在できます。私達は今、このことを話しています。宇宙は小宇宙の中に存在できます。

ですから、あらゆる条件下であらゆることが可能なのです。

それは、あなたの心、あなたの見方、あなたの誤解、あなたの理解、あなたの比較による人生、あなたの相対的な人生、これらすべての矛盾、これらすべてのパズルによる遊びなのです。何でもあり得るのです。

何度も何度も、様々な言葉で、様々な方法で、ある一点のみを強調しています。

様々な言い方がされ、違うものに見えますが、私達が反対と呼ぶこれらは、全て同じものを意味します。

### 水の中の蓮の葉のようなもの

ですから、聖者ヴァシスタは、常に世界の多くの名前と形に絡め取られている者も、全てから自由であると言います。行為者、享受者として、あらゆるもの、あらゆる行為に関わっているかのように見えても、行為者でも享受者でもないのです。

蓮の葉のようだというのは、そういうことです。蓮の葉は水の中で育ち、水の中に留まり、水の中でだけ朽ちますが、その生涯において水に触れることは一度もありません。

この世に存在しながら、ただ存在しなさい。そういうことです。私達はこの世にいて、この世に絡め取られ、全てを行い、楽しんでいていると思っっているので、自分が世俗的な存在だと思っっています。

「外側では全てを行いながら、内側ではこのような考えを全て捨てなければならない。」と聖者ヴァシスタは言います。行為者であること、享受者であること、全てを捨てなければなりません。

そして、「何をするにしても、犠牲や慈善、懺悔、感覚や心のコントロールとして行いなさい。」と言います。

外の世界では、ヨガの実践にしても、何をしても、内側では行為者になってはいけません。

私はどこにもいません。私は関わっていません。私は行為者ではありません。そこには何もありません。グルデブはよくそのことを歌っていらっしやいました。

世界は思考のプロセスです。存在することも思考です。世界には思考しかありません。

全ては長い夢です。私達は夜に夢を見ますが、今は、より長い時間、夢を見ているのです。

夜の夢が、昼の夢として延長されているのです。全ては夢であり、思考の波です。

### この世界は一人芝居

心がなければ何もありません。心があちこち動き回り、行為者になり、享受者になり、あらゆるものになります。一人芝居です。一人がさまざまな役を演じます。瞬く間に声を変え、形を変え、全てを変えます。すでに様々な衣装が用意されているのです。ある時は淑女のドレス、ある時は紳士の衣装、ある時は狂人の衣装、ある時はバラモンの衣装、なんでもあります。そして一瞬、明かりが消えると、衣装は消えてしまいます。今度は、彼は狂人です。一瞬、光が消え、次に偉大なパンディット(賢者)として現れます。彼は声を変え、違う行動をとります。これが一人の人間なのです。

**つまり、この世は一人芝居にすぎないのです。一人の絶対的な存在が、様々な形で現れます。これが条件だということを、徹底して理解すべきです。**

ですから、最後に、私達の偉大なグルであり、知識の権威である聖者ヴァシスタはラーマにこう言います。

「私の愛する少年よ、内面は落ち着いて静かにしていなさい。あなたは何者でもなく、絶対的な真理なのです。

外面的には、王として振る舞い、王国のために働かなければなりません。それがあなたに与えられた境遇だからです。他の王達と同じように王として相応しい振る舞いをしなさい。しかし、内面では、あなたはこれらのどれでもなく、絶対的な真理なのです。あなたはラーマであり、全ての心に宿る者です。

それゆえに、ラーマと呼ばれます。

全ての心に宿り、楽しむ者はラーマと呼ばれます。あなたはラーマです。」

これが、聖者ヴァシスタの結論です。

